

令和4年度 長寿の里・十四山 事業報告

【令和4年度重点目標】

1. 社会的課題の解決を支援し持続可能な地域を実現する取り組み
2. 施設・設備の更新・改善
3. 事業経営の安定化とガバナンスの確立
4. 人材確保と人材育成のための環境整備
5. 安心安全な利用者サービスの提供

【各部門事業実績】

〈特別養護老人ホーム〉

1.地域とのつながり・地域貢献

・地域交流やボランティアの受け入れ等、コロナ禍で実施することができませんでしたが、年間で予定していた施設内レクリエーションは規模を縮小しながらも実施することができました。今後は感染対策に配慮しながら地域活動へ参加し、学生実習生やボランティアの受け入れに努めていく。

2.人材育成

・認知症への理解を深めるため VR 体験研修を行いました。またオンラインによる外部研修も活用し多様な方法で研修参加を促しました。
・個々の職員に合った OJT の実施のための部署内研修を行い、職員の能力向上に取り組みました。その他、課題に応じた研修を随時行いました。
・利用者の安全な生活を支えるため、感染症予防研修や事故防止研修等を行い、対応方法の標準化を図りました。

3.ユニットケアの推進

・各専門職が意見交換や情報共有を通じて、その方らしい生活が実現継続できるよう可能な限り本人の自立と生活機能の維持の視点でサービス提供を行いました。

4.安定的経営基盤の確保

・令和4年度の平均稼働率（ショートステイ含む）98.5%でした。円滑な入退所ができるよう、各関係機関と連携を継続して図っていく。
・法人内の各施設サービス窓口を通じ、情報の共有と連絡調整を行い重度化に即した支援を行いました。

〈ショートステイ〉

1.介護サービスの提供

- ・住み慣れた地域で生活が継続できるよう個別ニーズや希望を確認しながらサービス提供し、緊急時の受け入れも利用者や家族の状況を把握し行政等と連携し、利用者の生活再建の一助となるよう努めました。
- ・個別サービス計画の作成と見直しを生活相談員や各居室担当者等と行い、利用者の心身の変化については日々のミーティングで共有及び支援検討を行い、計画へも反映しました。

2.利用者と職員の安全への取り組み

- ・福祉用具や介護ロボット等を活用し、持ち上げないケアを実践して、利用者や職員にとってより安全な介護になるよう取り組みました。
- ・事故報告について原因を会議内で検討し、対策から事後評価まで居室担当を中心に実践しました。会議内で随時対策しましたが、ヒヤリハットの活用に改善の余地が残りました。

〈デイサービス〉

1.自立支援をふまえたサービスの提供

- ・利用者の心身能力に合わせた自立支援に重点をおいたことにより、機能訓練に日常生活動作を中心とした訓練内容にすることで、心身機能の維持向上につなげることができました。

2.職員の資質向上

- ・各職員の介護技術能力を勘案し、個別研修及び利用者ごとでの実践指導を積み重ね、技術の向上を図りました。次年度も継続して個別研修を実施し、介護技術とサービスの質の向上に努めていきます。

3.法人内各部署との連携強化

- ・法人内施設利用者に対し、関係部署間で新型コロナウイルスに関する情報共有及び対応について密に連携したことで、必要なサービスを提供することができ、生活の質を高めることができました。

4.安定的経営基盤の確保

- ・令和4年度の平均稼働率は**66.5%**でした。住み慣れた在宅の生活維持に向けて各居宅介護支援事業所と連携を図り支援していきます。

〈居宅介護支援〉

1.利用者の自立支援、自己実現

- ・利用者や家族の望む生活と課題を一緒に考え、残存能力を活かしていく視点で課題分析を行い生活の質の向上に向け支援を行いました。その人らしいケアプランになるよう目標を一緒に考え自立支援を行いました。

2.地域の関係機関との連携強化

- ・医療依存度が高い利用者に適宜対応できるように、医療連携を密に行い入退院時に備えました。また困難事例に対して包括支援センターや行政、関係機関との連絡の強化に努めました。

3.介護支援専門員の資質、専門性の向上

- ・オンライン研修へ積極的に参加し、自立支援に向けて幅広く知識の習得に努めました。またミーティングをこまめに行い情報共有の強化、事業所全体で利用者を支援する観点で検討、評価しチーム力を高めました。